

NECグループが目指す社会価値創造

NECはブランドメッセージ「Orchestrating a brighter world」のもと、社会価値創造型企業として、ICTの力を活用した価値の提供に取り組んでいます。

この方針を定めるにあたり、私たちはまず、世界の経済・社会・技術の潮流を分析し、6つのメガトレンドとしてまとめました。これらは今後20年、30年といった長期視点で世界の国々や企業、そして人々が直面するであろう課題です。そして、私たちはこのメガトレンドをふまえ、自らの強みであるICTを活かして社会価値を創造する7つのテーマを定めました。私たちは、持続可能な社会の実現と、私たち自身の持続的な発展のために、この7つのテーマを中心として社会価値の提供に取り組んでいきます。

6つのメガトレンド (重要課題)

- 01 連鎖する資源・環境問題
人口増加や都市化による水・食糧などの消費拡大が、他の資源や環境に多大なインパクトを与える。
- 02 新興国の成長と新たな課題
新興国では急激な経済成長で、国力拡大が進む一方、環境問題や資源不足などの新たな課題が発生。
- 03 成熟社会モデルの模索
先進国では少子高齢化や設備老朽化などの変化が、現在の法制度や社会システムの変革を迫る。
- 04 個の力の向上と影響力拡大
インターネットの発展で、個の影響力がグローバルに拡大する一方、サイバーリスクなど懸念も広がる。
- 05 パワーの集中から分散へ
新興国や個の影響力の拡大により、世界は分散化し、新たなパワーバランスで再構築される。
- 06 多様化する脅威と安全安心ニーズ
世界の大きな変化は、実世界からサイバー世界まで多様な脅威を発生させ、安全・安心の需要が増加する。

Quality of Life
個々人が躍動する豊かで公平な社会

Work Style
枠を超えた多様な働き方

Industry Eco-System
産業とICTの新結合

7つの社会価値創造テーマ



Orchestrating a brighter world

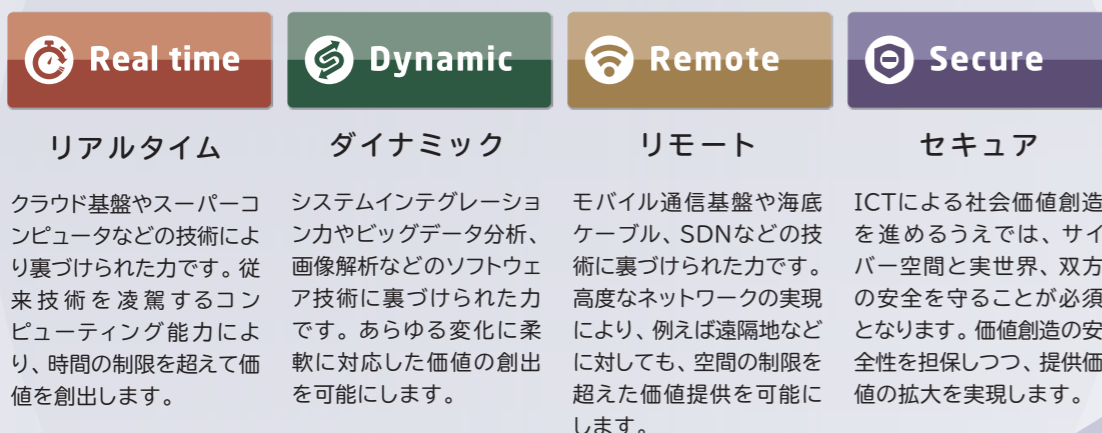
豊かな社会を実現するための4つの提供価値

私たちが提供する社会価値とは、何か。私たちは「社会価値創造型企業への変革」を掲げるにあたり、「社会やお客さまの本質的な課題は何か」を追求し、「人が生きる、豊かに生きる」ために、NECグループが永続的に提供していくべき社会価値は「安全」「安心」「効率」「公平」の4つであるという結論に至りました。



4つの価値の源泉

そして、これら4つの価値の源泉となるものが、私たちのICTアセットやインテグレーション力に裏づけられた「Real time」「Dynamic」「Remote」「Secure」という力です。



One to Many

お客さまや社会の本質的課題を解決するために

NECが提供する社会価値を最大化するためには、私たち自身も変革する必要があります。

これまで、私たちは「特定のお客さまの要求に徹底的に応える」という文化の中でプレゼンスを築いてきました。すなわち、One to One型のビジネススタイルです。

今後、私たちがグローバルな市場で社会課題を解決し、より大きな貢献を果たしていくためには、このOne to Oneのスタイルに加え、お客さまのお客さま、すなわち生活者、さらには生活者の集合体である社会全体のための価値を自ら創り出していく、One to ManyのスタイルをNECの文化として定着させていくことが必要不可欠です。お客さまの要求に徹底的にこだわり、さまざまな価値創造を実現してきた経験を活かして、「お客さまとともに粘り強く社会全体のための新たな価値を創造する」といった行動へと進化させ、外部環境もふまえたNECならではのビジネスモデルを作りこんでいくこと。

こうした一連の行動にすべての社員がビジネスの現場で取り組むことが、One to Manyの文化の真の定着へとつながっていきます。

私たちはこの変革をとおり、社会に対してより大きな価値を提供すること、お客さまにとって代替のきかない「真のビジネスパートナー」であり続けることを目指していきます。

ステークホルダーとの協奏・共創をととした社会課題解決への取り組み

NECは、さまざまなステークホルダーのみなさまとの対話や協働をととして、お客さまや社会の本質的な課題の理解に努め、信頼関係を築いています。そして、ステークホルダーのみなさまとともに、社会課題の解決に向けた新たな価値を創造し、提供していきます。

お客さまとともに課題解決に取り組む

日々の事業活動を通じて寄せられるお客さまの声は、新しいソリューションの提案や、事業活動の改善に向けての貴重な情報になっています。また、新たなイノベーションの創出に向け、当社内に設けた共創型ワークショップスペースなどを活用し、お客さまやパートナー企業などと意見交換しながら、お客さまや社会の課題を発見・整理して、コンセプトを練り上げる活動を進めています。

地域社会の一員として、社会課題の解決を目指す

社会課題の解決には、地域課題をよく知る自治体やNPOなどとの対話も不可欠です。当年度は、東北復興支援活動「NECグループ「TOMONI」プロジェクト」をきっかけとした宮城県南三陸町との復興連携協定の締結や、東京都、



2015年11月 復興連携協定調印式
(写真左から、当社東北支社長、南三陸町町長)

公立大学法人首都大学東京と協働した「TOKYO手話カレッジ」の開催などをととして、自治体との連携を深めることができました。NECでは、これからも社会課題解決に向け、「福祉・ダイバーシティ」、「環境」、「教育・文化・スポーツ」の3テーマで、社員による地域社会貢献活動「NEC Make a Difference Drive」をはじめとした社会貢献プログラムを推進していきます。

株主・投資家との対話を企業価値向上につなげる

株主・投資家の声には、外部環境の変化への迅速な対応など、経営改善につながる重要な意見が含まれています。当社では、社長やCFO、経営企画本部IR室を中心に、株主との面談や四半期ごとの決算説明会、事業説明会などのIR活動に注力しています。同時に、対話から得られた知見を経営陣に展開するとともに、取締役会でも定期的に報告しています。今後も、株主・投資家のみなさまとの対話の一層の充実に向けて、積極的なIR活動に取り組んでいきます。



取引先とともに責任ある企業活動を実践する

“取引先と一体となった責任ある調達”は、世界共通の課題であり、2015年の「G7エルマウ・サミット首脳宣言」にも「責任あるサプライ・チェーン」として盛り込まれています。

NECでは、社会的責任の国際ガイドライン規格ISO26000を考慮した「NECグループ調達基本方針」を策定し、取引先とともに、調達における6つの重点リスク(人権、労働、公正取引、環境、情報セキュリティ、供給責任)に対応しています。2013年3月期から実施している、人権や労働安全衛生についての実地診断「CSR-PMR*」は、取引先との共創を実践する、当社ならではの取り組みです。一方的な監査ではなく、取引先と対話しながら進めている点に特徴があります。

*PMR=Process Management Review

従業員との対話により、組織を活性化させる

従業員の声は、いきいきと働ける組織文化が根づいているかを測る重要なバロメーターです。NECでは、従業員のモチベーションに影響を与える要因と改善点の特定を目的に「One NECサーベイ」を毎年実施しています。当年度の国内調査では、対象者の約83%にあたる64,825名から回答を得ました。同僚への信頼感の高さやお客さまへの貢献意欲、NECへのロイヤリティに対する肯定回答率が70%を超えた一方、前向きに働いているという意識や、キャリア機会、評価制度、業務プロセスに対する肯定回答率は、40~50%でした。このほか、経営方針などを労働組合に説明し、直接意見を聞く場として、国内外で定期的に労使協議会を開催しています。



社会セクター「CSRレビューフォーラム」との対話

NECでは、アニュアル・レポートやCSRレポートをもとにNPOとの対話を行い、CSR経営のPDCAサイクルに活かしています。この一環として、2011年から、持続可能な社会づくりに取り組むNGO/NPO、消費者団体、労働関係者が共同設立した民間非営利組織である「CSRレビューフォーラム」と、ISO26000に基づいた継続的な対話を行っています。

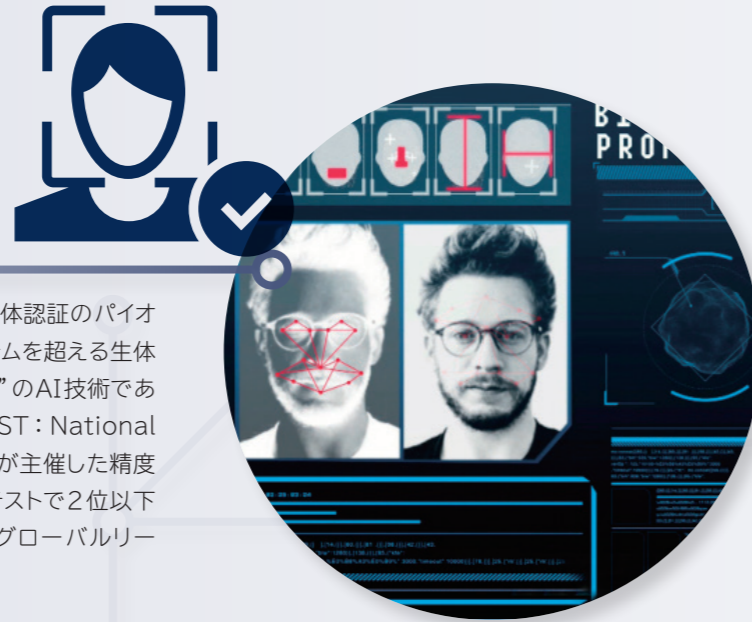
2016年には、「新しい中期経営計画」「社会ソリューション事業創出に向けたパートナーシップの課題」「ICTを活用した事業推進におけるプライバシー課題」「CSR調達」をテーマに対話を行いました。



社会価値創造を支えるNECならではのICT

ICTは、実世界のさまざまな「モノ」をつなげ、サイバー世界で“見える化”します。さらに、“見える化”した「モノ」のつながりを分析することで、さまざまなステークホルダーの真のニーズの把握・予測を可能にし、お客さまや社会の新たな価値創造に貢献します。NECは、新たな価値創造に向け、「モノ」の“見える化”、“分析”を担う人工知能(AI)の領域や、分析結果をサービスやソリューションとして提供するための制御・誘導を行う領域で、次のような強いICTアセットを保有しています。

世界No.1の顔認証技術



NECは、40年以上にわたり、研究開発を続ける生体認証のパイオニアです。これまでに世界70カ国以上に700システムを超える生体認証システムを導入してきました。特に、“見える化”のAI技術である顔認証技術は、米国国立標準技術研究所(NIST: National Institute of Standards and Technology)が主催した精度評価コンテストに3回連続で参加し、すべてのコンテストで2位以下のバンダーに圧倒的な差をつけて第1位を獲得。グローバルリーダーの地位を確固たるものにしていきます。

ビッグデータ分析を支える世界初のAI技術



多数のセンサデータ同士の相関関係を自動でモデル化し、人間では察知できないような「いつもと違う」かすかな兆しを早期に検知する世界初の技術「インバリエント分析」は、プラントの故障予兆監視などに活用されています。また、多種多様なデータに混在するデータ同士の関連性から、特定の規則性を自動で発見し予測する「異種混合学習」も世界初の技術です。従来の機械学習では困難だった、状況に応じて規則性が変化するデータでの予測や意思決定を、その根拠もわかる形で可能にしています。

ネットワークの柔軟性と効率性を高めるアーキテクチャ“SDN”



従来のネットワークは、高度な専門知識が必要で、構成変更や障害対応の手順が複雑でした。一方、クラウド化やサーバ仮想化の進展にともない、ネットワークにも柔軟性や効率性が求められるようになってきました。SDNはソフトウェアでネットワークを集中管理するので、従来に比べて構成の変更が容易になるだけでなく、柔軟で効率性の高いネットワークを実現します。NECは、SDNの標準化を主導し、2011年、世界に先駆けてSDN対応製品を世に送り出しました。NECのSDNは、全世界で600システム*以上が稼働しています。

*2016年5月現在

豊富な運用実績とグローバルな関連機関との連携を強みとするサイバーセキュリティ技術



NECは、企画・設計段階からセキュリティの確保を盛り込む「セキュリティ・バイ・デザイン」のコンセプトのもと、安全・安心なICT環境を提供しています。さらに、高度化・巧妙化が進むサイバー攻撃に対抗するため、AIを活用した未知のサイバー攻撃対策など、先進の技術を開発しています。また、インターポール(国際刑事警察機構)などの国内外の関係機関と協力関係を構築して、世界中の脅威情報を調査・分析し、グローバルでのサイバーセキュリティ強化に貢献していきます。